

日本ばね学会会報

2013年8月号 No. 503

目次	頁	目次	頁
巻頭言	後藤工業(株) 津山 貴昭…1	特許情報	8
テクニカルレビュー(30)	名城大学 大槻 敦巳…2	海外レポート(15)マレーシア	
第15回復元力応用分科会報告	4	KHC SPRING CORPORATION (M) SDN. BHD. 小淵 高…9	
地域紹介(7)川越	東都発條(株) 本間 保…5	書籍紹介	物質・材料研究機構 早川 正夫…10
技術トピックス(50)	東北大学 祖山 均…6	学会行事/編集後記	11

巻頭言

ばね学会活動で得たこと

後藤工業株式会社 津山 貴昭

私が当学会の事業委員会に初めて参画させていただいたのは、2009年6月に当社前任者から引き継ぎを受けた国際化推進委員会でありました。初会合には、一般的な技術者・研究者のイメージさながら堅苦しい雰囲気もあるかなと緊張して臨みましたが、それは杞憂に終わりました。当時の委員長は、故・小曾根敏夫氏(元中央発條株)で、ユーモアを交えてかつ雄弁に議事進行を行われ、右も左もわからない私に対しても気さくに話しかけていただき、イメージとのギャップに少々面を食らった次第でありました。それと同時に、人を引き付ける何かをお持ちの方だなと直感的に感じさせられたことを記憶しております。

さて、同委員会の活動概要としましては、学会活動の国際化推進、海外広報、海外団体からの照会への対応などを行っております。日本のばねに関する技術をいかにして世界にPRして行くかを議論し活動しており、海外ばね関連誌へ定例行事に関する記事投稿、会員を対象とした技術英語の勉強会開催などを行ってまいりました。直近の活動としましては、「ばね技術国際会議」と称する各国のばねに関連する技術者(特に若手技術者)の交流の場を、各国持ち回り制で定期開催することを目指して調整を行っております。

私個人としましては、前述の委員会以外にも、2つの研究委員会(「圧縮コイルばねの疲労限度線図の改訂調査研究委員会」「ばね鋼の熱処理及び窒化処理に関する調査委員会」)に参画させていただいております。いずれの委員会におきましても、様々な分野で、様々な経験を積んでこられた、様々な世代の方々のご意見やご経験談をお聞きし、またお話をさせていただくことは、私にとってたいへん刺激的で、日常業務に戻った時に新たな思いを奮い立たせる原動力ともなっています。それは、技術的・専門的な内容に留まらず、それ以外の内容に関するものも多くあります。

唐突ですが、以前、テレビである人物が、若いときに読書をする目的を以下のように述べられておりました。「狭い固定観念を崩壊させ、自我を再構築するため」と。読書をする目的は、いろいろな場面で聞かされてきましたが、これほど端的で耳に入ってきやすい意見は初めて聞くものでありました。ただし、読書のための読書であってはならず、また即効性を求めてもいけません。

冒頭触れさせていただいた、故・小曾根氏は生前、読書がお好きで読書量もたいへん多かったと、ご本人よりお聞きしたことがあります。人を引き付ける何かの要因のうちの1つとして、読書があったことは容易に想像できることで

少し脱線してしまいましたが、筆を進めるにつれて、当学会の関連行事に参加・参画することは、読書をするように感じてもらいました。近年、当学会行事への若手技術者の参加率が減少傾向にあるとお話をお聞きしておりますが、まるで若者の読書離れと呼応しているかのようです。インターネットで調べものをすれば一定の回答を得られるし、他に娯楽が増えたことが読書離れの原因といわれています。

最後に、若手技術者の方々には読まず嫌いとならずに、積極的に当学会の活動にご参加いただき、インターネットなどでは調べられないものを見聞き・体験していただきたいと思っております。そこには、将来の財産となり得るものが少なからず存在すると思っております。



書籍紹介

物質・材料研究機構 早川 正夫

アジアから鉄を変える 新しい鉄の基礎理論

著者 長井 寿 守谷 英明/東洋書店刊(2013年5月)/定価2,500円+税

鉄を使う側のエンジニアを読者対象とすることを意識して、第一部では鉄を取り巻く社会情勢、人類が鉄と関わり合った歴史的経緯が読み物風に展開されます。アジアを切り口にしたのは、こと鉄に関しては、ものづくりの産業として、日本とアジアの新興国が共存共栄足り得ることを、著者が伝えたかったためです。製品として使われるからこそ日本人に向いている戦略材料としたいのです。しかし、そのためには発想の転換が必要であることを主張しています。鉄を製品に生かす日本人の得意性を保ってこそ、鉄の内需と外需のバランスを戦略的に保ち、共存共栄が開けるとやや楽観的ながらも読者を納得させるものがあります。

鉄の歴史では、ビッグバンにさかのぼって、なぜ鉄がこの世に生まれたのかということから話を始めています。そして、鉄は人類とめぐり合うのですが、鉄の取り出し方に関する西洋と東洋の考え方の違いや、それがどうして近代的な製錬法に発展してきたかをわかりやすく説明し

ています。鉄も人類と出会って本望という思いがひしひしと伝わる内容です。

第二部から鉄の基礎物理となりますが、数式を一切使わず、鉄の本質をわかってほしいという著者の試みは画期的です。意外なようですが、エンジニアにとっても鉄が原子から構成されているということ意識することが、鉄の本質を理解するキーとなるのです。この考え方は第三部の応用編に出てくる熱処理を理解することにつながります。熱処理の本質が鉄や炭素原子の変態・拡散に基づくことを、鉄そのものの技術者や研究者でないからこそ、エンジニアにはズバツと理解してほしい、現場に生かしてほしいという著者の熱意が伝わってきます。

全編を通して、著者二人の対話式で進められておりますが、鉄の使い方や気をつけたいいけないことも丁寧に発止でやり合っており、飽きさせない内容となっております。

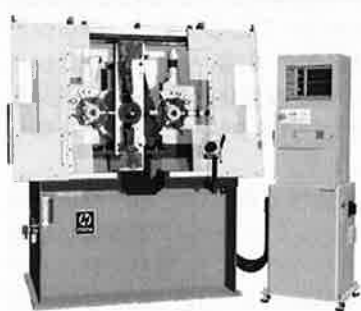


機械・コンピュータ・サービス・ネットワークを統合し、 幅広いラインナップでお客様のニーズにお応えします。

板屋製作所の製品は、常に独特なアイデアと最新の技術に基づいて設計され、最新のNC工作機械と、熟練した組立技術によって生産されています。

また、研究、開発、設計、加工、組立、調整、販売、アフタのすべてを社内で一貫して行っています。

板屋製作所は 機械・コンピュータ・サービス・ネットワーク 技術を統合した自動機械を提供し、お客様の成功に貢献いたします。



RX-20A



MX-20A



RS-8



PC-8A



株式会社 板屋製作所

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台504 TEL:047-394-7272 FAX:047-394-7273 ホームページ <http://www.itaya.co.jp/>